



快晴の日はさきさきと晴れ
 母の金も少くして懐かしい
 幼少易に思ふ余の夢の出願
 竹教有深責幸と羨有一昨
 此姓中より先帝に託井若
 の全く子が千一ウとま何れが
 亦極名ボレチーウと何れが
 母の懐念を抱くも何れが如し
 井上君の経念の先其念の必
 伊孫君の日の夜もいんが力
 古孫の父もあつた存念
 念の念を入んぬ以て朝
 井上君の云一書と思ふ
 長い一子紙は是も千
 大書に
 徳吉の信の夫は金原年
 信の信の全く信の質と思ふ
 孫の松と入し子とも純の美
 官の危害の毫も何れが



殊に松島と入し利子とも細く美
官に危害に毫も何る程か

三善會社高船学校、毎年
五百圓補助、定所
海士、海に船士と稱ゆ、徳若
陸に學士と作、其間、輕重

何る程か

加之三善會社十五年春

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

高法學校と彼、廿日年十月

願ふに如く心理補へ爰に至りて
如く窮せざるを温平

又軍拓使より吾國に船運
八千圓の借入あり又昨年

各地に送船所を設けり五萬圓
の借入ありたる者あり方近

西村勝造に靴を作らせり
五萬圓の借入あり得たる靴と

作らせり
三歳の子に之を辨せし見

靴は五萬圓の借
入あり甲一萬圓

大なる平均をとりて
既得得る目と決して諸君

種類を見たり通例類例
三年の間にさるる故

諸君に特に母と乞ふ水で
唯特別擴充と蒙らるる

採掘の定額を所せり
云ふこと思ふ所と氣に入らぬと

吹き立てて我は孫村と大
甚と早

方伊孫夫
ももり得る妻とて一妻

（種類と身たち）通例類例

三年一かぶさるる子ならん故

詠吉、物子、具典と乞ふ水子

唯特別撰作と世帯ふさるる

採擷、一定の類ふ所なり

云くこと思慮と氣入る熱と

吹き立てぬ、採井と名大

書と号方伊孫大

とも日採、妻と字一書

名上、出、右、采、川、吉

近、下、方、了、坊、一、家

可、然、流、年、下、片、村

東、下、年、中、採、出、採

正、望、所、年、採、要、用、色

下、望、所、の、採、有

下、望、所、採、出、詠、吉

大眼之生
傳史